

9 調査・研究

(1) 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当館の基本構想および理念を基に、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

(2) 調査・研究の目標

ア 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

イ 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野関連の企画等について調査・研究する。

【考古分野】

熊本市内の考古資料を中心に寄贈コレクションも調査・研究する。収蔵資料の多くが未整理のため、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などが活用できるようにする。

【民俗分野】

館収蔵資料の整理・調査および市内民俗行事および民俗資料の調査・研究を進め、その成果を広く公表し、かつ市民をはじめとした博物館利用者が

が活用できるようにする。

【歴史・美術工芸分野】

熊本市内および熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究を進め、市民や来館者への情報提供と展示に活用するための準備に努める。

【保存科学分野】

館内環境を調査し、展示品や収蔵品にとって適切な状態を保つことを目的とする。また、資料の修復などについて担当学芸員と相談のうえ、適切な処置の方法を考える。

ウ 今年度の調査・研究の取組

【地質分野】

特別展に向けた国内の翼竜標本調査。熊本市内の断層調査協力。

【動物分野】

金峰山山系及び江津湖の動物相調査。

【植物分野】

金峰山及び江津湖など熊本市域の植物相の調査。

【理工分野】

子ども科学・ものづくり教室に係る科学実験や科学工作の工夫・改善。

学校教育支援事業に係る学習プログラム集の活用と教材・教具等の工夫・改善。

【考古分野】

次年度企画展開催準備に伴う調査・研究。

収蔵資料の整理・調査、資料紹介の準備。

金属製品等保存処理必要資料の整理・把握（保存科学分野共同）。

常設展示資料の状態確認・改善と展示替え検討。

収蔵考古関係文献（書籍）の整理・精査。

【民俗分野】

企画展に関わる市内盆行事の調査・研究。

和傘製造道具関係の調査・研究。

市内年中行事の調査・研究。

館収蔵資料の整理・調査。

寄贈資料受け入れに伴う諸調査。

【歴史分野】

企画展に係る幕末維新时期資料調査・研究。

井手三郎関係資料の目録刊行準備。

次年度以降の企画展開催に向けた資料調査。

その他、寄贈資料受け入れに伴う諸調査など。

【美術工芸分野】

企画展「あつまれ！地域の宝もの」にかかる市内指定文化財の調査、収蔵品（絵画および生人形）の悉皆調査、新規寄贈資料の整理・調査。

【保存科学分野】

館内の温湿度や空気質等を測定するほか、展示室や収蔵庫内の環境と文化財害虫の有無を調査。

また、年間を通じて月ごとの動向や傾向を分析し、館内 IPM の改善を図る。